

当院を受診される方へ（一般的診療に関するご案内）

当院の診療では、様々な検査・治療等を行います。原則的には、医師が口頭で説明を行い、診療を行います。しかし、危険性の高いもの、特殊なもの等につきましては個別に書面で説明を行い、書面で同意確認をさせていただきます。

他方、以下に記載する危険性が低く、一般的な検査・治療等（一般的診療）につきましては、診療を円滑に進めるために、それぞれの検査・治療等の際の書面による説明・同意手続は行わず施行いたします。これらの内容について同意いただける場合は、同意書に署名をお願いいたします。

検査・モニタリング
<p>採血、血液検査、尿検査、蓄尿、微生物学的検査、検体の病理・細胞診検査、生理検査（心電図、超音波検査、呼吸機能検査など）、持続血糖測定検査、X線撮影、消化管造影X線検査、造影剤を用いないCT、核医学検査・FDG-PET検査、体組成分析、骨塩定量検査、心理検査、皮内反応検査（パッチテスト、皮内テスト、皮膚プリックテスト）、ダーモスコピー（皮膚鏡検査）、糸状菌検査、鼻咽腔喉頭ファイバー検査、耳鏡・鼻鏡、聴覚検査、平衡機能検査、鼻腔通気度検査、嗅覚検査、眼科検査（視力検査・スリットランプ検査・眼底検査・眼圧検査・視野検査・生理学的検査・その他画像検査）、尿量測定ウロフロメトリー検査、残尿測定、体内植込型機器の動作確認、内分泌負荷試験、婦人科内診（含む経腔超音波検査）、直腸診、味覚検査、補聴器関連検査</p>
治療・処置
<p>創部の処置、創傷の処理、皮膚切開（排膿）術、痰などの吸引、鼻腔カテーテル挿入・注入・吸引・抜去、膀胱留置カテーテル挿入・注入・吸引・抜去、う歯（虫歯）・歯周病・義歯の検査と治療、口腔ケア、認知症ケアチームの介入、トリガーポイント疼痛治療、フットケア、鼻出血止血処置、ネブライザー、経鼻胃管挿入、緊急時の気管内挿管、関節穿刺、関節の処置、ギプス装着・取り外し、湿布処置、消炎処置、眼科各種処置、弾性ストッキング着用、下肢への圧迫ポンプ装着、酸素投与、温・冷罨法、末梢静脈路確保、皮膚軟膏処置、爪甲処置、皮膚光線療法、皮膚処置、耳垢除去、耳管処置、人工内耳のマッピング、植込み型骨導補聴器のマッピング</p>
薬剤の投与
<p>一般的な投薬（内服・外用・注射・点滴）、一般的診療に伴う局所麻酔</p>
その他
<p>病歴聴取、身体所見、体温測定、身体測定、体重測定、血圧測定、高次機能検査、リハビリテーション、栄養指導、食事の決定、人工乳の使用、何回か繰り返されている外泊の指示、薬剤処方、創部・患部等の写真撮影・動画撮影、残余検体（検査に提出された血液や尿、痰、身体や臓器から摘出した組織、細胞など）及び保存されている画像データを検査機能・検査試薬の検証や診断精度の向上または教育・指導のために使用すること、氏名・生年月日・患者IDの本人確認や呼出のための使用、療養における心理社会的支援、防犯および患者さんの安全確保のための防犯・監視カメラによる撮影、アンケートを用いた自覚症状の評価</p>

※QRコード(下)より、各項目の説明コンテンツを確認できます。



（文責）病院長

いっぱんてきしんりょう たい ほうかつどういしょ
 一般的診療に対する包括同意書

島根大学医学部附属病院 病院長殿

私は、 年 月 日に説明を受け、貴院における一般的診療について
 同意しましたので、下記署名をいたします。

入院される 診療科に○ 印を付けて ください。	61	84	85	63	64	65	66	67	68	27	02	83	03	71	72	73	74
	内分泌代謝内科	腫瘍内科	血液内科	消化器内科	肝臓内科	脳神経内科	膠原病・リウマチ内科	呼吸器化学療法内科	腎臓内科	循環器内科	皮膚科	形成外科	小児科	心臓血管外科	呼吸器外科	消化器外科	肝・胆・膵外科
入院される 診療科に○ 印を付けて ください。	75	76	06	07	08	09	81	82	11	12	34	14	15	26	29	79	86
	小児外科	乳腺外科	整形外科	脳神経外科	泌尿器科	精神科神経科	産科	婦人科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	眼科	放射線治療科	麻酔科	歯科口腔外科	救命救急センター	総合診療科	高度外傷センター	高度脳卒中センター
患者番号 (診察券番号)	—																
患者 (注1)	氏名	生年月日								大正 昭和 平成 令和 年 月 日							
保護者又は 代諾者	氏名	(歳)								(続柄) <input type="checkbox"/> 家族等							
	住所									<input type="checkbox"/> 家族以外 (注2) (ご本人との関係)							
同意年月日	年 月 日																

(注1)ご本人が署名できないときは家族等が患者欄に患者氏名を記入し、保護者又は代諾者欄に署名してください。家族等とは父母・配偶者・成人の子又は兄弟姉妹・親権者等をいいます。

(注2)家族等でない方が代諾者となられる場合は、ご本人とのご関係を記載してください。

(例えば「入所施設担当者」、「成年後見人」など)

包括同意の項目説明用コンテンツ

No.	区分	説明内容
検査・モニタリング		
1	採血	採血とは、検査のために血液を採取する医療行為です。採血は病気の診断や病状の把握を行うためにに行います。
2	血液検査	血液学的検査：赤血球や色素から貧血の程度を、白血球の多さから炎症の程度などを把握します。 生化学的検査：血液中の糖質、蛋白質、ビタミン、ホルモンなどを調べ、臓器の状態を把握します。 免疫血清学的検査に含まれる項目で、ウイルス感染、活動の有無を調べます。
3	尿・便検査	成分を調べて腎臓や肝臓の異常を検出したり、消化器の異常をチェックします。
4	蓄尿	24時間等時間を区切って、尿を貯めて頂き尿量を測定し、各種検査を行います。尿蛋白や、電解質の排泄状況を正確に調べます。ホルモンの異常なども正確に測定します。
5	微生物学的検査	採取した検体から、病気を引き起こす細菌などの微生物を検出します。
6	検体の病理検査	身体の臓器や、その組織の一部あるいは細胞を顕微鏡によって観察し、悪性細胞などを見つめます。
7	検体の細胞診検査	生体から細胞を採取し細胞学的診断を行います。
8	心電図	心臓の筋肉に流れる微弱な電流を測定することで、心臓の動きを把握します。
9	超音波検査	身体に超音波を当て、その反射波によって臓器や胎児の状態を調べます。
10	呼吸機能検査	大きな呼吸をしたり、勢いよく息を吐き出したりして、肺の機能や病気を調べる検査です。手術前や、肺炎腫、気管支喘息などの病気を調べるために行われます。
11	肺機能検査	呼吸計(スパイロメータ)を用いて肺活量などの吸気・呼気量測定を行い、呼吸の状態を測定するもので、呼吸器疾患の診断や経過観察、治療効果判定などに用います。
12	呼吸検査	肺活量など呼吸器の機能測定を行い、レントゲンではわからない肺や気管、気管支の状態を調べます。
13	呼気ガス分析	運動負荷試験では酸素摂取量や二酸化炭素排出量を測定し、心肺機能や代謝の効率を評価します。
14	持続血糖測定検査	皮下に刺した細いセンサーにより皮下の間質液中の糖濃度(間質グルコース値)を持続的に測定することで、1日の血糖変動を知ることが出来ます。
15	脳波	頭皮に電極を装着し、α波やβ波などの電気的信号を脳波計で記録して脳神経などを調べます。
16	筋電図	表面電極や針電極を用いて筋肉の活動状況を調べます。
17	サーモグラフィ	皮膚温をカラー表示で示す装置で四肢末梢の血流障害を調べます。
18	X線(一般)撮影	X線を人体に照射し、各組織を通過してきたX線の量の違いを画像として表示します。 空気などのX線が通過しやすい部分は黒く、骨などのX線が通過しにくい部分は白く写し出されます。
19	消化管造影X線検査	一般的に「バリウム検査」と呼ばれている検査で、造影剤を口から飲む、あるいは肛門から注入して、消化管のX線画像を撮影します。
20	造影剤を用いないCT	CT検査はX線を利用して、身体の断面(輪切り像)を撮影する検査です。多方向からエックス線を照射して人体のエックス線吸収値を測定し、その情報をコンピューターで処理し画像の再構築を行い、人体の断面を得る方法です。
21	核医学検査	核医学検査は、アイソトープ検査またはRI検査とも呼ばれ、特定の臓器や組織に集まりやすい性質を持った放射性医薬品を使って、そこから放出される放射線(ガンマ線)をガンマカメラで画像化することにより体内の様子を調べる検査です。
22	FDG-PET検査	陽電子放出断層撮影の略で、放射能を含む薬剤を用いる、核医学検査の一種です。放射性薬剤を体内に投与し、その分析を特殊なカメラでとらえて画像化します。
23	体組成分析	身体の水分・蛋白質・骨量・脂肪量などの測定を行います。
24	骨塩定量検査	X線や超音波を当て骨量・骨密度を測定します。
25	心理検査	一定の理論や科学的手法にもとづいて作成されたさまざまな心理検査・テストのことをいいます。性格傾向や知的・発達段階、認知機能などについて客観的に測定、把握するために行われます。
26	各種モニタリング	救急受診した際の診察中や、各種処置中に、体調に変化が起きないか、持続的に、心拍数や血圧、酸素飽和度、呼吸数、脳波、筋弛緩程度などを持続的に測定を行います。
27	心電図	3点にシールを貼り、心臓の電気的活動を測定します。
28	経皮酸素飽和度測定	指先にセンサーを付けて、動脈血の酸素飽和度を測定します。
29	動脈圧	手や足の動脈に細い管を穿刺・留置し、血圧を持続的に測定します。
30	麻酔深度モニタ	脳波を元に麻酔薬の効果を推定します。
31	筋弛緩モニタ	筋弛緩薬の効果を筋収縮力を測定しモニタリングします。
32	皮内反応検査	各種アレルギーに対するアレルギー反応の有無の判定・薬疹の原因薬剤同定・各種感染症の診断・抗生剤や造影剤などの薬剤使用前の過敏性検査などで用いられます。
33	パッチテスト	かぶれの原因を調べるために行う検査です。原因と考えられる物質を貼付して、皮膚の反応を調べます。
34	皮内テスト	皮膚に皮内テスト用アレルギーを注射して、一定時間内にその部位におこる皮膚反応(赤くなったり、はれたり、硬くなったりする)を調べます。
35	皮膚ブリックテスト	即時型アレルギーの原因を特定するために行う検査です。方法は細い注射針により少量のアレルギーを皮膚に入れ、15～20分後に出現した膨疹径を測定して判定します。
36	ダーモスコピー(皮膚鏡検査)	照明の付いた拡大鏡を用いて、肉眼では評価が難しい皮膚病変の状態を調べる検査です。痛みを伴うことなく、皮膚病変を詳しく観察出来るため、より正確な診断が可能となります。
37	糸状菌検査	皮膚糸状菌症は、数種類の真菌によって引き起こされる皮膚および爪の真菌感染症で、感染部位によって分類されています。皮膚糸状菌による感染症は、たむしや白癬と呼ばれることもあります。白癬などの診断を確定するには、皮膚の擦過物を採取して、顕微鏡で調べます。
38	耳鼻咽喉科領域検査	
39	鼻咽腔喉頭ファイバー検査	耳鼻咽喉科の内視鏡は「鼻咽頭ファイバー」、「喉頭ファイバー」などと言い、鼻から声帯がある喉まで観察することが出来ます。普段は見えない鼻の奥や喉の奥の方まで観察することができるため、気づきづらい病気も見つけることが可能です。
40	耳鏡・鼻鏡	耳鏡・鼻鏡とは、耳、鼻の穴の中を診察するときに使う医療器具のことです。
41	聴覚検査	標準純音聴力検査(いろいろな周波数の音について、聞き取ることのできる一番小さな音を調べる検査)、語音聴力検査(ことばの聞き取り度を評価する検査)、インピーダンスオージオメトリー(鼓膜の動きを調べる検査)、聴性脳幹反応(音をきくことで発生する脳波を測定する検査)などがあります。
42	平衡機能検査	三半規管や視覚、深部知覚(関節や筋肉などが備えている受容器の動きで、目を閉じているときでも手足の位置などがわかること)などを調べて、平衡機能が正しく働いているかどうかを調べる検査です。めまいの訴えがあるとき、その原因、程度などを調べるために行われます。
43	鼻腔通気度検査	鼻の詰まり具合を客観的に見る指標として用いられ、安静呼吸で鼻腔の通り具合を知る検査です。
44	嗅覚検査	基準級力検査(複数の嗅素を用いて、どのくらい薄い濃度でにおいがわかるか、識別できるかを調べる検査)などがあります。
45	味覚検査	味覚の検査は、4味を種々の濃度でしみ込ませたろ紙を舌の上に置き、各々の味に対する味覚障害の程度を調べます。また、電気味覚計により障害の程度が測定できます。微かな電気刺激で金属味が生ずることを利用したもので、舌の上に電極をあて電流の強さを変えて測ります。
46	補聴器関連検査	実際に補聴器を着けて、音場閾値検査(いろいろな周波数の音について、聞き取ることのできる一番小さな音を調べる検査)、音場語音検査(ことばの聞き取り度を評価する検査)を行ったり、周囲の環境音(雑音など)を聞いて補聴器が適合しているかを検査します。
47	眼科領域検査	
48	視力検査	遠くや近くの見え方を測定する検査です。一般的に「ランドルト環(Cの形)」などの視力表を用いて行います。視力の程度を把握することで、眼の病気の進行や治療効果を確認します。
49	スリットランプ検査	眼の表面から内部まで、細い光を使って詳しく観察する検査です。拡大鏡を使って、角膜、虹彩、水晶体などを調べます。眩しさを感じることがありますが、痛みはありません。まばたきを我慢していただく場合があります。

50	眼底検査	眼底検査とは、瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、眼底の血管、網膜、視神経等を調べる検査です。
51	眼圧検査	眼圧検査とは、目の表面に空気を噴射し眼球内の圧力を調べる検査です。
52	視野検査	見える範囲(視野)が正常かどうかを調べる検査です。中心から周辺にかけてどこまで見えているかを測定します。片目ずつ行い、点が見えたらボタンを押すなどの操作が必要です。検査時間は数十分かかります。
53	生理学的検査	目や視神経の電気的な反応を測る検査で、ERG(網膜電図)やVEP(視覚誘発電位)などが含まれます。
54	その他画像検査	眼底カメラ、OCT(光干渉断層計)、眼軸長測定など、目の内部を非接触・非侵襲的に撮影・解析する検査です。
55	泌尿器科領域検査	
56	尿量測定ウロフロメトリー検査	専用の機械の前で排尿していただく検査です。それにより一回排尿量、尿の勢いを測定します。
57	残尿測定	通常の尿意が生じた後に十分な時間をかけて自然排尿を行い、その後超音波もしくはカテーテルを用いて残尿測定します。(臨床手技の完全解説より抜粋)
58	尿流動態検査	膀胱が充満したら、排尿中の排尿筋圧を測定します。排尿障害の病態を詳しく知ることができます。
59	高次脳機能検査	聞く、話す、読む、書く、能力の検査と記憶力や遂行機能について検査します。
60	体内植込型機器の動作確認	体内植込型のペースメーカー等の機器を定期的に電池残量測定、動作確認、機器本体やリード線の異常有無、病状に応じた機器の設定変更をします。
61	内分泌負荷試験	体内のホルモンの分泌や機能を評価するための検査です。この検査は、ホルモンの異常が疑われる場合や、ホルモン関連の疾患を診断するために行われます。
62	婦人科内診	婦人科内診では内診台に座り、手袋をつけた婦人科医が膣から指を入れて、子宮や卵巣の状態を調べます。また、腹部にしこりがないかなども手で触って確かめます。産婦人科を受診したすべての方に行う検査ではなく、必要な場合に行います。
63	経陰超音波検査	経陰超音波(経陰エコー)検査とは、婦人科でおこなう超音波検査の一つで、子宮や卵巣などを観察するための検査です。婦人科の内診台に座り、プローブと呼ばれる細い棒を膣の中に入れます。プローブの先から出る超音波が子宮や卵巣に反射した画像を、モニターに映して子宮や卵巣の様子を確かめます。
64	直腸診	直腸診とは、医師が肛門から人差し指を挿入して肛門とその周辺の臓器を触診する検査です。
65	治療・処置名称等	
66	創部の処置	創傷部を感染から防ぎ、良好な創傷治癒過程を助ける目的で簡単な消毒およびガーゼによる被覆を行います。
67	創傷の処理	切・刺・割創又は挫創に対して切除、結紮又は縫合を行う第1回目の治療のことでです。
68	皮膚切開(排膿)術	膿がたまって炎症や痛みの元になっていたりした場合に主に局所麻酔下に切開して膿を出す処置です。
69	デブリードマン	汚染した創や一部壊死した創に対して感染予防や創傷治癒促進のために壊死部を切除する処置です。
70	喀痰吸引	細い管と吸引装置を用いて、口腔内や気道にたまった痰などの分泌物を吸引します。
71	鼻腔カテーテル	鼻から細い管を挿入し、吸引装置を用いて口腔内、気道内にたまった痰などの分泌物を吸引します。
72	膀胱カテーテル留置	尿道よりカテーテルを入れます。一般的に、そのカテーテルはバルーンカテーテルと呼ばれ、膀胱内で膨らますことにより、抜けないようにします。一般的に排尿困難な方が対象となりますが、そのほか、尿量を正確に測定したいときや、体の安静を保つ必要があるときにも行います。
73	う歯(虫歯)・歯周病・義歯の検査と治療	う歯(虫歯)・歯周病・義歯の検査と治療を行います。
74	口腔ケア	口腔ケアとは、歯磨きなどで口の中をきれいに保つだけでなく、健康保持や口腔機能向上のためのリハビリなどを含んだ幅広い内容のことをいいます。歯や歯茎、舌、粘膜、入れ歯を含む口の中の清掃、口腔内や口周りのマッサージ、咀嚼や嚥下のトレーニング、リハビリなどが含まれます。
75	認知症ケアチームの介入	患者さんの認知機能を低下させないように症状や行動を把握して生活を支援します。
76	トリガーポイント疼痛治療	触診などで確認しながら局所限定的に痛み止めなどの注射を行なって痛みを和らげる処置です。
77	フットケア	足のケア全体の総称です。足の観察から、足浴、爪切り、胼胝や鶏眼のケア、マッサージ、保湿、創傷処置などがあります。
78	耳鼻咽喉科各種処置	
79	中・外耳処置	耳垢除去や耳洗浄、耳管通気、鼓膜麻酔など
80	鼻処置	鼻出血止血、鼻腔・副鼻腔手術後の処置、鼻粘膜の麻酔など
81	口腔処置	口腔内薬液塗布、唾液腺管洗浄など
82	咽頭処置	咽頭粘膜の麻酔、扁桃周囲膿瘍穿刺など
83	喉頭処置	喉頭粘膜の麻酔、喉頭ネブライザーなど
84	耳垢除去	耳鏡や顕微鏡で耳の中を見ながら、耳垢鉗子や吸引管などを使って耳の穴を塞いでいる耳垢を取り除きます。
85	耳管処置	鼻の穴から、耳(中耳)に空気を送る処置です。一般に「通気」と呼ばれています。これは、中耳炎の治療として行います。
86	人工内耳のマッピング	人工内耳のプログラムを調整することをマッピングと言います。聞こえに合わせて電気刺激量の調整をします。
87	植込み型骨導補聴器のマッピング	植込み型骨導補聴器のプログラムを調整することをマッピングと言います。聞こえに合わせて音響利得の調整をします。
88	関節喉頭鏡による検査	関節喉頭鏡を入れて喉頭を観察します。
89	耳の処置	外耳道の組織生検
90	耳下腺 顎下腺 リンパ節 甲状腺の細胞診 針での生検	針で細胞または組織を採取します。
91	ネブライザー	ネブライザーとは、液状の吸入薬を霧状にして、気管支や肺などに送る医療機器のことをいいます。喘息や気管支炎、肺炎、副鼻腔炎などの治療に使われるもので、液体の吸入薬を細かい霧状にして、気管や肺、鼻の奥などに直接届けます。
92	経鼻胃管挿入	鼻からプラスチック製のチューブを挿入し、胃まで通すことです。
93	緊急時の気管内挿管	呼吸停止、心停止に対しての救命処置や咽頭反射が障害された患者の気道確保のため、あるいは人工呼吸管理を必要とするような呼吸不全症例に対して喚起補助を行いやすくし、患者の状態安定を得るために行う処置です。
94	関節穿刺・関節の処置	関節液を抜いたり、骨折や脱臼の整復(元に戻す)処置を行ったり、骨折部の安定のためにギプスなどで固定する処置を行います。
95	ギプス装着・取り外し	骨折・靭帯損傷などの治療において患部の安静を保つ為に、外から固定・保護します。必要に応じギプスを分割して、除去あるいはギプスシャーレにします。
96	湿布処置、消炎処置	外用薬や器具を用いて、炎症を認める部分の痛みを和らげる処置を行います。
97	眼科各種処置	検査や手術の前処置として洗浄や点眼、軟膏の塗布を行います
124	弾性ストッキング着用	下肢静脈瘤の予防、治療に使います。
125	下肢への圧迫ポンプ装着	下肢静脈瘤の予防、治療に使います。
126	酸素投与	呼吸不全を呈している状況で、鼻または口から酸素をマスクや鼻カテーテルより吸入してもらいます。
127	温・冷電法	症状を軽減するために患部を温めたり冷やしたりします。
128	末梢静脈路確保	末梢の静脈に針やカテーテルを留置する手技です。
129	皮膚軟膏処置	患部に軟膏等を塗る処置で、皮膚症状の改善や維持を目的として行われます。
130	爪甲処置	普通、「爪」と呼んでいる硬い部分は爪甲といいます。一般的な爪切りに加えて分厚くなった爪を薄く削る処置などを行います。
131	皮膚光線療法	皮膚光線療法は、紫外線の「免疫の働きを弱める作用」を利用した治療方法であり、発疹等の治療を必要とする部分に対して、装置の光源から紫外線を照射する治療方法です。
133	一般的な投薬	症状や疾患の原因に合わせて、内服薬を処方します。

134	薬剤処方	疾患、病態に適した薬剤を処方します。場合によっては持参薬の変更、中止や新規薬剤の追加が必要になります。
135	注射(静脈内・筋肉内・皮下)	症状や疾患の原因に合わせて、注射薬を使用します。
136	点滴(末梢静脈内留置針挿入、持続皮下留置針挿入)	症状や疾患の原因に合わせて、留置針を用いて、経静脈的に持続的に薬を投与します。状況によっては、皮下に持続的に薬を投与することもあります。
137	一般診療に伴う局所(伝達)麻酔	痛みを伴う処置をする前に局所(神経周囲)に針を刺して、麻酔薬液を注入します。
138	血糖測定	主に手の指先を細い針で刺し、ごくわずかな血液(数μL)を出します。専用の機械に血液を吸引させることで、血糖値を迅速に測定することができます。
139	その他	
140	病歴聴取	いつから、どのような症状があったかなどを問診で聞き取ります。
141	身体所見	視診、触診、打診などの診察を行います。
142	体温測定	
143	身体測定	身長、体重、腹囲などを測定します。
144	体重測定	
145	血圧測定	
146	リハビリテーション	筋肉や関節の機能を維持するために行いますが、その都度担当者から説明があります。
147	栄養指導	管理栄養士が疾患毎の適切な食材、調理方法、カロリー数などを指導します。
148	食事の決定	疾患、病態毎に適した食事を提供します。
149	人工乳の使用	
150	何回か繰り返されている外泊の指示	
151	創部・患部等の写真撮影、動画撮影	
152	残余検体(検査に提出された血液や尿、痰、身体や臓器から摘出した組織、細胞など)及び保存されている画像データを検査機能・検査試薬の検証や診断精度の向上または教育・指導のために使用すること	
153	氏名・生年月日・患者IDの本人確認や呼出のための使用	
154	療養における心理社会的支援	
155	防犯および患者さんの安全確保のための防犯・監視カメラによる撮影	
156	アンケートを用いた自覚症状の評価	